

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276100332		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム 常葉の家		
所在地	静岡県掛川市大坂398-1		
自己評価作成日	平成25年 1月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	okensaku.jp/22/index.php?acti=okouhyou_pref_search_list_list
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人しずおか創造ネット		
所在地	静岡県葵区千代田3丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成25年 1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○ 利用者の状況、要望に個別に応じられるよう、心がけています。</p> <p>○ 目の前の公園があり、恵まれた自然環境にある。又、買い物も歩いて行け近さなので、生活環境として快適です。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>海辺に近く立地し、隣には広々としたコミュニティ公園があり、子供たちでにぎわっています。建物は3階建てで近くに高い建物がないところから、聳え立つという感じで、近隣の津波避難所になっています。ほどよい距離に大型スーパーもあり、散歩がてらの食材調達も日々の楽しみになっています。ベテランの館長さんの自慢は職員達で、永年就労者が多く意識の向上心、自主的な勉強会の開催意欲、個々のケアを大切にしている介助力などで話され、記録等で確認できました。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にもとづいた支援ができる様、心掛けしている。	グループと事業所の理念があります。利用者には安全でゆったりとした環境、メリハリのある生活を提供したいとしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りの屋台は、施設の中に入ってもらったり、地域の婦人部の方の唄や踊りを、定期的に来て披露していただいています。大坂幼稚園の幼児も、きて唄や踊りをしていたきます。	年毎に地域との交流が深まり、祭りの屋台のにぎわい、婦人部や園児の出前催事、中学生の福祉体験と勉強会などが行われています。また事業所前の通学路での交流から手紙を貰うこともあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の中学校で福祉体験があり、生徒が、順番に2日間体験していただいています。今年は勉強会にも参加して頂きました。また、地域の方の見学等いつもオープンにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行っている。	報告、予定が項目別に編集され、わかりやすい記録が行われ行政への提案・要望、回答などが話合われています。会議が19時の開催のため家族の出席がむずかしく課題になっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でケアサービスの取り組みを伝えたり又、日頃から連絡をし協力関係を築いています。	施設は海に近く、津波発生時の避難経路、備蓄品の有無など行政とメールで連絡しあっています。また年4回全事業者の連絡会議があり情報の交換をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない、その人らしいゆとりのあるケアを心掛け、コミュニケーションをとっている	玄関のカギは、1階は交通量が多いため閉めています。身体拘束などの研修はグループ全体でパソコンのネットワークを組み、同時中継で情報の共有を図り効果を上げています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や講演に行き、その資料のもとで職員同士で学ぶ機会をもち、より良い介護に向けての取り組みを促進する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人的に講習に参加し、他職員も学ぶ機会を持ちそれらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解 納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望など意見箱を設置し取り組んでいる。	日頃、ご家族の面会時、意見を聞き取り連絡ノートに記録しています。また月1回の「写真入りお便り」を個々のご家族に出し職員との交流を深めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議で機会を持ち反映させている。	職員の提案からサービス向上でビデオ上映機の導入、介護技術の勉強会などが実施され、職員の意欲、コミュニケーション向上に役立っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修があり、職員の研修レポートの提出や、薬剤師の方の講義を、常業の家で開催しました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のグループホームと交流する機会を設けたり、系列以外の連絡会に出席し、活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に耳を傾けながら、安心して過ごせる様に、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時、電話での報告、手紙などで関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	定期的な通院や外出支援等、本人家族と話し合い、その人らしい生活の継続が図れるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりのペースを大切に、家族のように共存し、庭には畑があり、野菜の育て方など、利用者から学び、お互い支え合う雰囲気大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、築いていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方と会って頂いたり、本人が行きたいなじみの場所にドライブに行っています。	時代の流れか、家族は身内の入所の事実をオープンにする傾向が強くなっています。地区の老人会の訪問、昔馴染みの踊り仲間に出会う機会、寺参りをするなど馴染みの支援も幅広くなっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや、お誕生日会、行事等一緒になって孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合える様な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	あまり行えていないが、そのご家族の紹介で、地域の方が相談に来られたりします。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。	入所者の何気ない表情から不安などをつかむよう支援しています。施設では3年、5年という長期就労職員が多く入所者の仕草から要望をくみ取ることが多いようです。困難な場合は、家族の協力を貰っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ゆったりした雰囲気、出来る事やしたいことを尊重した無理のないその人らしく過ごせる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合い、介護計画を作成している。	各階の計画作成者を中心にモニタリングを踏まえ、協議していきます。車いすの人も時には手引歩行をさせる、食欲減少の対策を立てるなど家族の意見も取り入れ見直しを図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、気づきや工夫を個別記録に記入し、サービス担当者会議などで活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	イチゴ狩りやぶどう狩り利用者の状況に応じた要望に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園での地域に方とふれあったり、近隣の会館で季節によってお花畑ができ、お花を摘んだりして外出しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師に受診に行き気軽に相談できる医療を受けられるよう支援しています。	かかりつけ医の受診は職員が介助し、認知症の進行を遅らせる対策から軽度な医療まで対処しています。往診は特別に終末期の方に行われ、急変対応は救急車にお願いしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医師やいきつけのあすか薬局の薬剤師から相談できる医療を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院安心して治療できるように御家族とも相談し総合病院の連携室との情報交換や相談等関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体の状態を把握し、家族、医師と十分話し合いを行い、取り組んでいます。	ここ2年では、看取りは1件で通常は受け付けていません。それでも現実的には、要望もあり、ご家族の協力があれば可能としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を職員全員で受けており、定期的に講習に行き、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練総合訓練を昼間、夜間と想定し行って、地域の方と津波訓練をし、協力体制を築いています。	防災訓練は、年2回昼間、夜間で行います。近くの幼稚園の園児父兄60人の3階屋上に駆け上がる訓練をしたことから、近隣の人の津波避難場所に提供してほしいとの要請に入所者救助策を含め快諾しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対し思いやりを持った声掛けを心がけています。	穏やかに声掛けをし、呼び方もチャンづけはやめようと指導しています。好きで徘徊している場合は見守ろう、上から目線の介護はしない、また職員同士の外でする施設の話は注意するよう心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位で言葉に気をつけて、働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの、今やりたい事や、思いを尊重し、希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者でお化粧をされる方がおられるので大切にしていきたいです。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に料理を作り、会話を楽しみながら片付けをしている。	食材調達は、自己4日業者3日ですが、いずれすべてを自己仕入にしたいとしています。メニューは各階独自で、年数回の特別食は本部調達です。外食の回転ずし、手づくり農園産のサツマイモパーティは人気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表で、水分量が確保出来る様努めています。メニューを決める時もバランスを考えて行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や、本人の力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は綿パンツ、夜間は紙パンツ、習慣を活かして、自立に向けた支援を行っている。	入所時より自立度が上がり綿パンツ着用が増えています。また排泄誘導が過ぎると依存度が高くなるようで、そわそわ感の把握も必要とし、本来の力の回復を望んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師に相談したり、個々に応じた散歩や体操、便秘予防の飲み物等、考えて取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆず湯や香りを楽しんだり、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、個々にそった支援をしている。	ゆずや入浴剤はご家族の提供です。入浴ギライは何かの原因があるとして、例えば、着替えがないと思い込んでいる人に、なじみの着替えを出すと効果的のようです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明を常に出して理解し症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、取込み、たたみ、買い物、菜園作り、水やり、張り合いや喜びのある日々を過ごせる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園や、買い物に出掛けたり、気分転換にドライブにいけます。季節によっては、花見や、おやつを持って出掛けます。	施設の前には広いコミュニティ公園があり、日常的な散歩のポイントで子どもたちとの交流の場です。季節により海浜やヒマワリ畑のドライブも人気です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分の買い物で、所持し使っている方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の承諾を得、電話をしたりしています。年賀状のやりとりができる様、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花を飾ったり、掲示板で四季折々の工夫をしています。	節分を前に壁にオニの面を飾ったり、書道の作品を張ったり各階独自の飾り付けを楽しんでいます。農園では季節野菜づくりがさかんです。館長は、職員の意識向上が実りつつあると話しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファで過ごされたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝日が入り、気持ちが良いです。使い慣れたものや、好みのものが置かれ、居心地よく過ごされています。	居室には使い慣れた家具などが置かれ観葉植物の鉢がある部屋もあります。3階の廊下からは富士山眺望が楽しめます。或る部屋では、エアコン暖房より電気アンカを好む方もおりました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。		